

ダイヤモンドエレック
トリックホールディングス(HD)が、成長に向け舵を切る。力を入れている顧客開拓と製器開発の成果を裏ませ、2024年3月期には売上高1000億円(21年3月期比約4割増)と営業利益率4.5%(21年3月期は3.2%)を目指す。子会社2社のダイヤモンド電機と田淵電機のパワーを結集し、経営改革を図る小野有理社長に方針を聞いた。

◇ 21年3月期はコロナ禍による自動車の販売減少で主力の自動車

反転攻勢 23年度売上高1000億円

ダイヤモンドエレHD社長 小野 有理 氏

再生エネ活用技術テコに



用点火コイル事業が苦戦し、売上高は前期比0.5%減の706億円(21年3月期比約4割増)と営業利益率4.5%(21年3月期は3.2%)を目指す。子会社2社のダイヤモンド電機と田淵電機のパワーを結集し、経営改革を図る小野有理社長に方針を聞いた。

「田淵電機の大容量蓄電システムは赤字だったが、黒字でよく売れた。点火コイルは厳しいが、長年の課題だった低収益・高コスト体質を生産拠点の集約で解消した。当期損益は当初予想で赤字だったが、黒字で着地できた」

「蓄電システムや電気自動車(EV)用車載充電器をはじめ、再生エネ活用技術で将来が不透明な分野に挑戦する。顧客の協力を得て、EVが増えても、2社の技術を組み合わせることで、住宅と車に最適な「プロダクト」を提案する。21年当分は反転攻勢の年。開度ほぼ終えている製品の販売は北米向けも復品もあり、新しい顧客調べる見通しで、開発

「EVが増えても、2社の技術を組み合わせることで、住宅と車に最適な「プロダクト」を提案する。21年当分は反転攻勢の年。開度ほぼ終えている製品の販売は北米向けも復品もあり、新しい顧客調べる見通しで、開発

「新たな事業は社長が直轄し、全権と責任を担っている。衆知をい」

成長へ次なる挑戦始まる

記者の目

小野社長がダイヤモンド電機の社長に就いたのは16年。点火コイルの米国独占禁止法違反で経営が悪化した時だ。18年からダイヤモンドエレHD社長を兼務し、19年には経営再建中だった田淵電機の社長に就いた。現在は3社の社長を兼任する。再生請負人として仕事をやりとげ、成長という次の挑戦がこれから始まる。(大阪・田井茂)